

# 有限会社 豊作会農園

## ■ 労力・コスト低減に努め、多品目栽培により所得の向上を図る



### 〈法人の概要〉

所在地: 〒069-1142 由仁町東三川

代表者: 代表取締役 前田直樹

構成員数: 6名(構成農家3戸)

役員数: 3名 常時雇用者: 6名

設立: 平成13年3月 資本金: 300万円

事業内容: 野菜(転作含む) / 農作業受託、直売所、直販、  
インターネット販売、農作業体験

水稲 17.6ha、秋まき小麦 7.3ha、てん菜 6ha、だい  
こん 6ha、キャベツ 4ha、トウキ 2ha、その他  
22.1ha(H23年)

経営面積: 65ha 農作業受託面積: 19ha

売上高: 9,000万円(H23年) 交付金も含む

電話: 0123-87-3540 FAX: 0123-87-3540

URL: <http://www.housakukai.com>

E-mail: [shinsen@housakukai.com](mailto:shinsen@housakukai.com)

### 〈法人のあゆみ〉

- |       |  |
|-------|--|
| 平成13年 | 構成農家3戸で有限会社豊作会農園を設立、経営面積52haでスタート<br>高収益作物(トウキ、センキュウ)を栽培 |
| 17年   | 構成員の娘がUターン入社   |
| 21年   | 高収益作物(ニンニク)の栽培を開始  |
| 22年   | 農地2ha借入  |
| 23年   | 従業員4名(1戸)雇用、農地11haを借入し、経営面積65haに拡大                       |

### 〈設立の経緯・設立後の状況〉

- 平成3年から、畑作物や野菜の生産にかかる労力やコスト等の低減を図るため、現在の構成農家3戸で共同作業を行ってきた。しかし、農産物価格の低迷や人件費の高騰、農業機械や施設への新たな投資などで個人の負担が年々重くなり、厳しい経営が想定される状況だった。また、構成農家のうち2戸は子供が後継者として期待できない状況でもあった。これらのことから、一層の労力・コスト低減に努めるため、個人経営から法人へ移行することとした。
- 3年程度かけて、北海道農業会議や農協、町、農業改良普及センターなどに相談しながら、各戸の負債整理、給与設定などについて検討を重ね、負債については個人に支払われた給与で償還できるように設定した。3戸の家族の合意を得た後、平成13年3月に3戸6名で有限会社豊作会農園を設立。由仁町で初の複数戸による農業生産法人の設立となった。
- 法人化に当たっては、①畑作物の輪作体系の確立 ②野菜の作付面積の拡大・ロット確保によるスケールメリットを生かした安定供給 ③営業利益の向上 を目指した。
- 構成員の土地は賃借とし、構成員外からの借入地を含め経営面積52haでスタートし、平成22年に2ha、23年に11haを借り入れて経営規模を拡大。
- 設立時より、高収益作物としてトウキとセンキュウを栽培。その後、平成21年にはにんにくの栽培も開始した。
- 平成19年にホームページを開設し、農作物情報を発信するほか、インターネット販売を開始。
- 平成23年に地域の農家1戸が従業員4名として加入。その農家が運営していた直売所を法人で引き継ぎ、直売に取り組む。

### 〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・法人化により、個人経営から共同経営になったので、人間関係の円滑化が難しいところであるが、その反面、大勢で仕事をする楽しみもある。
- ・法人化によって経理が複雑化した。が、税理士の活用や毎日の記帳により対応している。

### 〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・経営規模の拡大、施設や機械の共同化・集約化、農作業の分業化により効率的な作業体系が確立でき、コスト低減が図れた。
- ・国の事業の活用により、新技術が導入でき（馬鈴薯のカットングプランター、多目的管理作業機など）、労働時間の低減が図れた。

### 〈法人が継続するためのポイント〉

- ・構成員の意思疎通のため、定期的なミーティングを実施。
- ・後継者の育成として、簿記講習会や事例視察などに参加させている。

### 〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・経営の幅が広がること、仕事は分業化し色々なことにチャレンジ可能な複数戸法人化を勧める。

### 〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・平成 19 年からホームページを開設し、農園の紹介、農作物情報の提供、農産物の通信販売、農園の体験案内などの情報発信を実施している。
- ・学校、団体、個人などを対象に、田植えや畑作物の収穫、トラクターの試乗体験など農作業体験を実施している。
- ・平成 18 年にだいこんでエコファーマーに認定。

### 〈経営目標と将来の展望〉

- ・経営規模の拡大、農産物の直売・加工や観光農園などの多角化経営に取り組み、所得の安定化を図る。
- ・水稻の側条施肥技術と優良品種の導入、作業の機械化による省力化と地力増進に取り組み、生産方式の合理化を図りたい。
- ・宿泊許可を取得し、修学旅行生の受入を可能にしたい。

### 〈視察等の受入〉

詳細については要相談。

連絡先： 0123-87-3540（担当：代表取締役 前田直樹）